

追悼文



垣田直巳先生を偲ぶ

教育学部 松村 幹男

2年前まで教育学部英語教育研究室の主任教授であった垣田直巳先生が、去る5月17日、急性心不全のため忽然として逝かれた。享年65歳であった。英語教員養成という、これまでの大任務に加えて、英語教育学の構築とその研究者育成を自らの使命とし、その生涯を燃焼させる日々を過ごされたというのが、私たち研究室にいる者の実感である。心からご冥福をお祈り申しあげる。

先生は鳥取県のご出身であったが、広島高師文二へご入学以来、一貫して広島の学園に学び、教育と研究にうちこまれた。その間、広島を離れたのは、エディンバラ大学とミシガン大学へそれぞれ1年間、留学研修された時だけであった。正に西の本山における巨星であった。

先生は剛毅の人であると同時に繊細な感情の人であり、物事をやり遂げるねばり強さを持ち続けられた。その根性は筋金入りであった。計画性は抜群で、実践力・行動力を伴うその力強さは余人を寄せつけなかった。卒業生の面倒もよく見られた。タイプライティングは英文・和文とも玄人跳であり、確か50歳を過ぎてからだと思うが、車の運転免許を取られ、禁煙に踏みきられた。先生は大学教官の道を選ばれなかったとしても恐らく成功者の仲間入りをされた方ではなかったか。

いまや、先生は垣田直巳(1923~1989)と記される人になってしまわれた。失って初めて知る師の恩、それを胸の奥に深くしみじみと思うこの頃である。

